



2025年3月期 第1四半期説明資料

1 2025年3月期 第1四半期決算概要

2 2025年3月期 通期業績予想

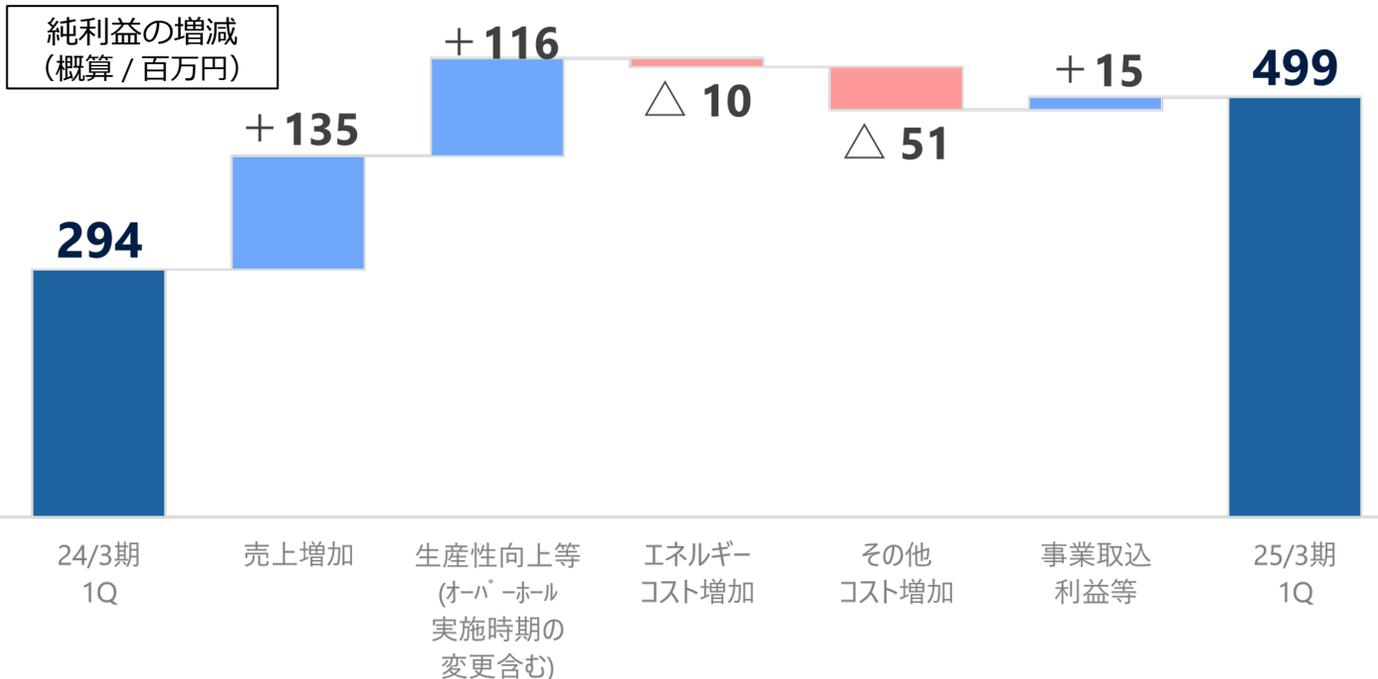
3 参考資料

2024年8月2日

ジャパンフーズ株式会社

(証券コード 2599 東証スタンダード市場)

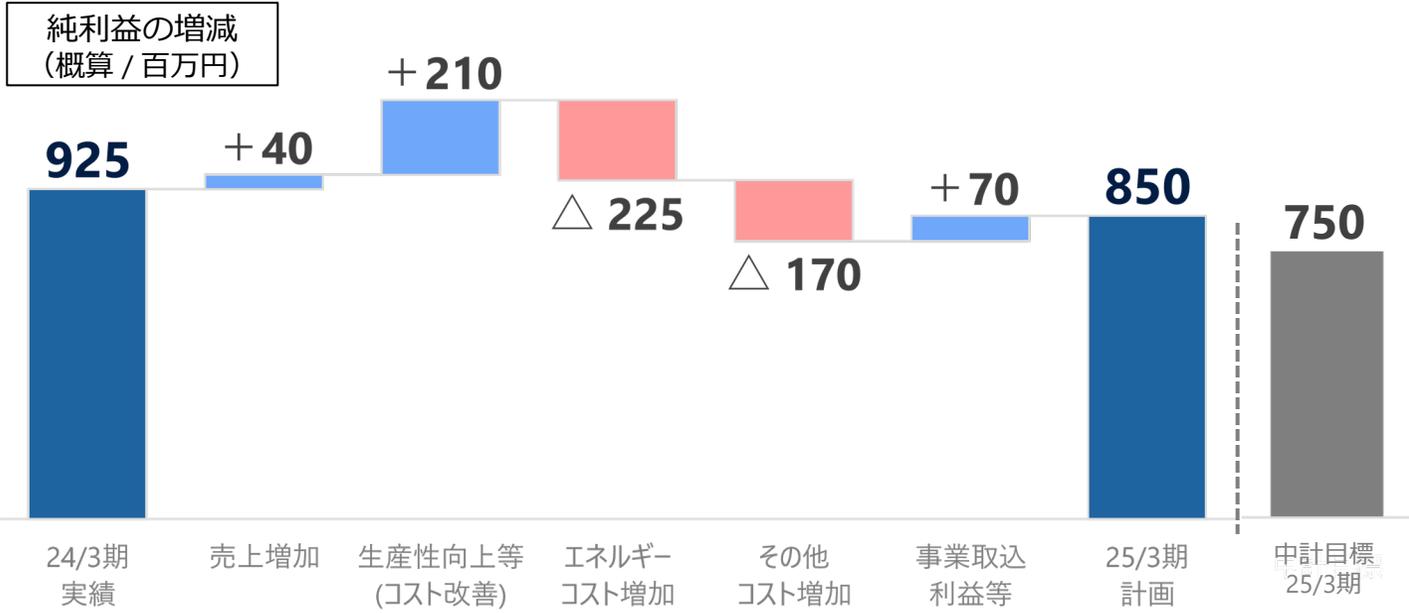
チャレンジ&コミットによる通期業績目標達成に向け、1Qは概ね計画通り堅調に推移。



(単位：百万円)	24/3期 1Q実績	25/3期 1Q実績	増減
製造数 (千ヶ-入)	11,499	12,573	+1,074
営業利益	370	665	+295
経常利益	411	718	+307
連結純利益	294	499	+205
(単体 / コア)	(265)	(455)	(+190)
(事業取込利益等)	(29)	(44)	(+15)

- 飲料業界の販売数量が前年同期並みとなる中、新たな販売領域を含めた全ての客先の受注拡大に努めたことや、品種切り替えの効率化による設備稼働率の向上や一部オーバーホール実施時期の変更による製造スペースの拡大により、製造数が前年同期比9%増加したことに加え、原燃料価格の高騰分の一部価格転嫁の実施により、売上は前年同期比で増加。
- 政府のエネルギー価格抑制策の前期反動や、2024年問題等による物流費高騰によるコスト増加があったものの、生産性向上によるコスト改善や、一部オーバーホール実施時期の変更等の効果もあり、全体コストは減少。
- 事業取込利益は、中国の受託製造事業が堅調に推移したことで、前年同期比で利益増加。

外部環境の悪化によるコスト増加を見込み、前期比で利益減少も、2023年度の成長軌道を維持し、中期経営計画時の目標を上回る利益の達成を目指す。



(単位：百万円)	24/3期実績	25/3期計画	増減
製造数 (千ヶ-入)	43,004	42,990	△14
営業利益	1,009	790	△219
経常利益	1,267	1,080	△187
連結純利益	925	850	△75
(単体 / コア)	(699)	(555)	(△144)
(事業取込利益等)	(226)	(295)	(+69)

- 製造数は、2024年問題の影響もあり前期並み。原燃料価格の高騰分の一部価格転嫁の実施により、売上は増加。あらゆる生産性向上により売上の上積みを狙う。
- 生産性向上によりコスト改善するも、地政学的リスクや円安等の外部環境の悪化や政府のエネルギー価格抑制策の前期反動によるエネルギーコストの増加に加え、2024年問題等による物流費高騰や基幹系システム導入による償却費の増加により、全体コストが増加。
- 事業取込利益は、中国事業を中心に堅調に推移することで、前期比で利益増加。

品質経営の推進により経済価値と社会価値を両立させた企業価値向上を目指す。

品質経営 - ふけかの進化 -

企業理念・経営ビジョン

中期・短期 経営計画

- ・消費者目線に立ち「魅力的商品の追求」
- ・ものづくりへのこだわり、自分へのこだわり
- ・原点回帰・三現主義（現場・現物・現実）

人づくり

モチベーション
コミュニケーション

カイゼン活動

PDCA

コスト改善の追求

け

※削る

生産性向上

新たなニーズの追求

か

※稼ぐ

人材活性化

ひとが
第一

ふ

品質向上の追求

※防ぐ

SDCA

ナレッジ・ノウハウ
～ New Business Model の源泉～

経済価値

(単位：百万円)	中期経営計画期間		
	23/3期	24/3期	25/3期 (目標)
連結純利益	246	925	850
株主資本比率	34%	37%	42%
ROE	3.3%	11.6%	9.6%
営業CF	1,431	3,061	1,800

中長期目標

27/3期 目途

1,000

50%以上

10%以上

3,000

31/3期

46%削減

-

-

20%以上

-

企業価値向上に向けた施策
(経済価値と社会価値の両立)

- ・「品質経営」を全社をあげて推進。あらゆる生産性の向上、新たな販売領域の創出。
- ・財務体質の改善と収益力の強化。
- ・JFらしいスマート工場（DX関連）エッジコンピューティング。
- ・市場環境（サステナビリティも考慮）に合わせた設備投資。
- ・人材育成の強化・ひとへの投資。
- ・環境配慮型経営の推進。

次のステージ・次の飛躍へ

社会価値

環境

温室効果ガス排出量 ※2013年度比	25.5%削減	18.0%削減 (暫定)	30%削減
給水原単位	4.29L/L	4.04L/L	4.00 L/L
リサイクル素材PET 使用率	19.2%	22.5%	30.0%

人的資本

女性管理職比率	12.5%	9.6%	13.0%
中途採用人材の 管理職比率	38.0%	44.2%	40.0%

社会価値の向上に向け、環境面では、設備の洗浄時間の短縮や再利用による節水等の省エネ・省水活動、及び製造技術向上に向けた取組みを進める。また、人的資本においては、無形資産（人的資本・技術ノウハウ）の最大活用のため、人員体制の最適化や人材育成・教育制度の拡充を通じて、多様な人材の登用を積極的に推進することに加え、2023年に発足した女性活躍推進プロジェクトを通じ、社員のキャリアビジョン形成や労働環境改善における課題解決を行い、男女の隔たり無く、全ての人々が安心して、能力や意欲に応じて活躍できる環境づくりに取り組む。